

小牧市歴史館運営委員会会議録

- 1 開催日時 平成22年6月28日(月)
午前9時30分～午前10時30分
- 2 開催場所 小牧市役所南庁舎 4階 監査会議室
- 3 出席者 歴史館運営委員 横地 操、浅井啓介、江尻鎌市、池田洋子、
安藤和憲

事務局 中嶋教育部長、落合教育部次長、
山下文化振興課長補佐、山本文化財係長、浅野主査

4 内 容

- 1 あいさつ 中嶋教育部長あいさつ
- 2 江尻委員長あいさつ
- 3 報 告
小牧市歴史館の運営状況について
【資料1】により事務局より報告

池田委員:平成20年度の団体入館者数が多いですが、その理由はなんですか。

事務局:名鉄のハイキング参加者の入館だと思う。

池田委員:名鉄のみならず、旅行会社や各種団体に歴史館を売り込んで、観光のコースに組み込んでもらいたい。このように何かとドッキングさせたり、テレビなどのメディアをうまく利用してください。

入館者数を増やすには、団体の入館が手っ取り早い。

事務局:名鉄のハイキングについては、今年もコースに入れたいとの申し出がありますので、入館者数の増が見込めます。

横地委員:歴女ブームもあり、今盛り上がっている。歴史館のPR方法の再考を。

池田委員:ポスターを名鉄沿線などに貼るのもよい。

江尻委員:ハイキングやウォーキングなどで来館した場合、その参加者に小さなものでもよいので、プレゼントをする、例えば、しおりなどあるとよい。また、ウォーキングでは、うちわなどを配付して要所要所

でスタンプを押すとかいろいろ考えられる。

事務局：また、今年度も歴史館の指定管理者である小牧市施設活用協会より、8・9月の土・日曜日は夜9時まで開館時間の延長を行うとの提案がありましたので、昨年同様、入館者数の増加が見込まれます。

安藤委員：団体入館の際には館内を案内するボランティアガイドはいるのですか。

事務局：現在、常駐のガイドはいません。これまでは、ガイドの依頼があった場合、ガイドをお願いしていた方がいたのですが、その方が病気になってガイドができなくなり、現在は市の職員で対応するか、お断りをしています。平成20年度に愛知文教大学への委託事業の中で行った歴史ガイドボランティア講座の卒業生が自主的に組織してできた「たぶの木会」があるが、まだガイドの内容には不十分な点がある。このような点を踏まえて、今年度試験的に市内の歴史団体に協力依頼をして、4・5月の第1・3日曜日に歴史館にてガイドを行いました。今年の10・11月にも同様のガイドを行い、来年度以降はボランティアガイドをある程度制度化できたらと考えています。

池田委員：夜間開館についてのPRは、どのように、どこまでの範囲にしているか。

事務局：市内向けにはチラシや市広報でPR、周辺市町の小中学校等へはチラシを送付している。ホームページにも掲載予定ですので、その意味では県内のみならず全国へPRしていることになると思う。

池田委員：遠方からも興味を持って来てもらえるように、広くPRしてください。

4 議 題

平成22年度 企画展示について

【資料2】により事務局より説明

池田委員：織田家と江崎家の関係がよく分からないが。もともと小牧の出身ですか。

事務局：江崎氏は元は岩倉織田家の武将であったが、岐阜攻めの際に負傷し、小牧へとどまり、信長が造った城下町の管理を任されたとされる。ただし、これらのことは江崎家側の由緒書によってのみ伝えられるものであり、同時代の古文書等にはでてこないもので、はっきりしたことは分からない。小牧に土着してからは武士をやめ、以後は小牧で庄屋を務めたものと思われる。

池田委員：尾張徳川家と江崎氏との関係は？

事務局：小牧・長久手の合戦の折、長久手への道案内をした折、家康から軍扇を下賜されるなど信を得、以後、小牧山の管理を尾張徳川家から任せられるようになりました。こういったことも、大半の市民の方は知らないと思うので、企画展で紹介することには意味があると思う。

池田委員：江崎氏の肖像画はないのですか。これほど尾張徳川家と関係が深いのであれば、普通は肖像画を描くと思う。

事務局：肖像画の存在は把握していません。確認します。

池田委員：小牧中学校は旧制からあったのですか？

事務局：戦後、昭和22年頃に造られました。

江尻委員：小牧山の旧小牧中学校用地は、かつては竹林だった。戦中に兵士の帽子を作るために竹の皮を集めにいった記憶がある。小牧中学校は戦後、進駐軍のブルトナーを借りて運動場の造成を行った。そこで出た土を、小牧空港へ持っていったはずだ。そういったことも知る人はだんだん少なくなるので、記録として残すことは重要だ。

池田委員：史跡の中に学校があるというのは珍しいのではないか。日本唯一であれば、そういったことを小牧山のPRに使えるのではないか。

事務局：史跡の中に公共の施設があるのは、よくあることです。本来、史跡の中に史実と異なるものを造ることはできないはずだが、中学校、青年の家、歴史館、市役所などが建設されてきました。当時の判断とはいえ、文化財行政担当者としては、これらの行為は恥ずべきことであり、この反省から史跡小牧山整備計画が策定されました。ですから、史跡内に建物があることをPRの材料とすることは控えたい。

浅井委員：小牧中学校の校歌には小牧山がでてくる。市内の校歌のうち、小牧山が歌詞に出てくるものを集めて、歴史館から流すとか、館内のBGMに使うと、懐かしさから歴史館に来館する人が増えるのではないか。

横地委員：中学校等の同窓会の会場として歴史館を使ってもらおうといいのでは。

浅井委員：小牧山は、歴史的な面と市民のランドマークとしての面の2つのアプローチの仕方がある。これまでは前者を重点にやってきたと思うが、これからは後者にシフトしていてもいいのではないかと思う。

池田委員：イベントで人を集めるのではなく、歴史館自体の魅力を出して人を集められるように。

横地委員：歴史ガイドボランティア講座を小牧山で行ってはどうか。

池田委員：個々にではなく、まとめて集合体として、小牧山に足を運んでもらえるようになることがポイントです。

5 その他

- ・ 4・5月に実施した歴史館ボランティアガイドについて再度説明
- ・ 歴史館で販売中の扇子について紹介